

知っておきたい日本の神社と神様名鑑



上総の国いちはらの歴史を知る会

参拝者トップクラスの三大神社

多神教である日本の神道には、主祭神の違う様々な神社が点在する。その中でも系列社の数が多いのが、八幡神社と稲荷神社、そして天満宮の三大神社です。この三社は、年間の参拝者数もトップクラスで、全国から多くの人が集まっている。

八幡神社

神仏習合・武運の神を祀る神社

日本全国に約4万社あると言われる八幡神社の総本宮は大分県にある「宇佐神宮」で、歴史は古く725年に創建された。

八幡大神（応神天皇・誉田別神）・比売大神・神功皇后を祀っている。

八幡信仰が始まった宇佐神宮の境内には、571年に始まって八幡様が3歳の童子のお姿で現れたと伝えられる「御霊水」がある。

※ 参考資料 市原市内には、八幡神社が32社登録されている。



稲荷神社

五穀豊穡・商売繁盛の御利益で有名な神社

「日本書紀」では倉庭魂命とされている「食物を司る神。屋敷神としても知られ、家内安全のご利益でも有名。稲荷=狐を連想する人が多いが、これは食物の神「御食津神」を「三狐神」と表記したことに由来すると言われていいる。お稲荷さんの神様は狐ではなく、そのお使いが狐と言われる。

日本全国に3万社あると言われる稲荷神社の総本社は「伏見稲荷大社」と言われ、711年2月の初午の日に稲荷大神が祀られたことが始まりで、五穀豊穡や商売繁盛などの神として広く崇められている。

※ 参考資料 市原市内には、稲荷神社が30社登録されているが、境内に祀られている稲荷社も数多く見られる。



天満宮（天神神社・天神社とも呼ばれるが、祭神が違う場合もある）

菅原道真公を祀る、学問の守護神

天満宮（天満神社）の祭神は、太宰府天満宮の御祭神である菅原道真公です。菅原道真公は西暦901年に藤原時平らの陰謀で、弁明の機会も与えられないまま福岡の大宰府に左遷され、その後903年に無念の気持ちを抱いたまま亡くなった。道真公の死後に都では干ばつや飢饉が続き、落雷や水害などで藤原一族に不幸が続いて起き、道真公の怨念によるものと宮廷内は恐怖におののいていた。

そこで朝廷は、道真公の罪を取り消し、元の大臣の位に復帰させた。その後道真公は天神と呼ばれ、雷神信仰に結びついて道真公を祀る祭神を天神と称するようになったという。

「天満」の名は、道真公が死後に送られた神号の「天満（そらみつ）大自在天神」から来たと言われ、「道真公の怨霊が雷神となり、それが天に満ちた」ことが由来という。

天神神社は天満宮とは別で、その以前から存在し「田神社」と呼ばれ、祭神は田の神様、生産・育成の色彩が強い。雷神や農耕の神。

※ 参考資料 市原市内には、天神神社として登録されているものが3社ですが、それ以外で境内に祀られている天神社の祠や社が数多く見られる。



時代で変わる神様のかたち

神話時代

はるか昔、天と地は交じり合い混頓としていたが、やがて天と地が分れる時が訪れ、世が始まる。天は神々が住む「高天原」という天上世界となり、初めに万物の祖とされえる造化三神が現われ、続いて神代七代の神々が出現する。次第に神は神代七代の最後として、イザナギ・イザナミが登場し国生みの物語が始まる。

「イザナギ・イザナミ」二神による国生みの順序は、現在の淡路島から始まり、四国、隠岐島、九州、対馬、佐渡島、本州の順と言われている。

神々がここに誕生する

国生みを終えた二神は、次にたくさんの神々を生むが、イザナミは「火の神ヒノカグツチ」を生んだ時にやけどを負って亡くなってしまう。しかし残されたイザナギは、その後も神を産み落とし、アマテラスやスサノオといった神話を司る神々がここに誕生してゆくことになる。

アマテラスの登場により、神の世界は統治され育てられてゆく。



日本の神様とは

アニミズム（靈魂）？と神話？

日本の神様は神道抜きに語れない。神道は日本の数ある宗教の中で最古とされ、アニミズムと言われる自然信仰が始まりとされる。自然、衣食住など身の回りの様々なものに神様はいるという考えはここからきている。そこに古事記や日本書紀の神話時代の神様や名をさせた偉人たちが神社に祀られるようになり、八百万の神々を形成している。現在のように神様を祀る本殿などの社が出来る前は、自然にあるものを神聖視し社を設けずにお祀りをしていた。木は神の神霊が宿る神木と捉えたり、岩や山などの自然物も同じように考えられていた。自然物以外にも神様は宿る。

三種の神器

神様は自然物だけでなく、他の者にも宿るとされるのが神道の考えで、特に有名なのが「三種の神器」で、ニニギが天孫降臨の際に「アマテラスオオミカミ」より授かったものとされ、神々しい無二の存在とされている。

三種の神器の安置場所(イラストはイメージ)

本体	伊勢神宮	熱田神宮	皇居
分身	皇居	皇居	—

古事記や日本書紀に記された神様

神話の神様

天の神々はやがて地上に降り立ち、国づくりを通じて地上に様々な産業を呼び起こし、国譲りを通じてその末裔が皇祖として地上を治めるようになってゆく。そして大和国が創建され、天皇を中心とした統一国家が誕生してゆく事になる。大和国の成立によって、神々の信仰も体系化されてゆく事になる。



アニミズムが神様の始まり

神道はもともと文字が発明されるはるか以前のアニミズムと呼ばれる土着型の精霊、自然信仰が起源とされている。つまり、山や風や木や岩などの自然にまつわる様々なものすべてに神様が宿るとされている。



平安時代

神様は実は仏様だった？

平安時代に入ると、**神身離脱説**は影をひそめ、これに代わり日本の神はインドの仏・菩薩が民衆を救うために現れた(権現)とする「**本地垂迹説**」が生まれる。それにより「権現号や菩薩号がつけられた神々が祀られ、さらには本地仏(神の正体とされる仏の姿)も定められた。

神は仏であるという思想が一般的になり、本地仏や権現号など仏教的な要素が神々に定められ、神仏習合が本格化する。



鎌倉時代

武士階級の勢力が増し、今まで貴族や一部の階級しか知り得なかった**宗**教に関する理解が民衆に一気に広まった。

これにより、今までに登場した様々な説に対する逆説や新しい考え方も生まれ、いろいろな信仰や宗教が全国的に相次いで生まれたが、この段階でも仏と神は共存していた。

江戸・明治時代

江戸時代の末期になると、日本固有の思想や精神を明らかにする国学が盛んになり、神道の原点に回帰する考えが生まれ、近世神道思想の主流となる。そして、1868年に**神仏分離令**が公布され、神社から仏教の要素が、寺院から神道の要素が撤廃され独立、民間レベルの信仰は神仏習合したまま現代になった。



日本の神様名鑑

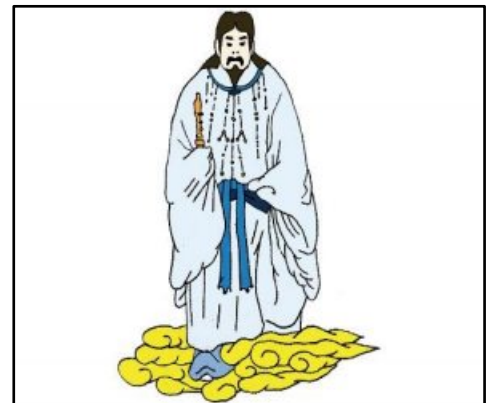
まだ日本という国がなかった頃、国生みの神「イザナギとイザナミ」によって多くの神々が誕生しました。彼らにはそれぞれ役割や力が与えられ、日本国を統一して行きます。では、どのような神様がいるのかを紹介します。主要な神様のプロフィールを祀られている神社やご利益と共に紹介します。

★伊邪那岐神(古事記)・伊弉諾神(日本書紀)(イザナギ)

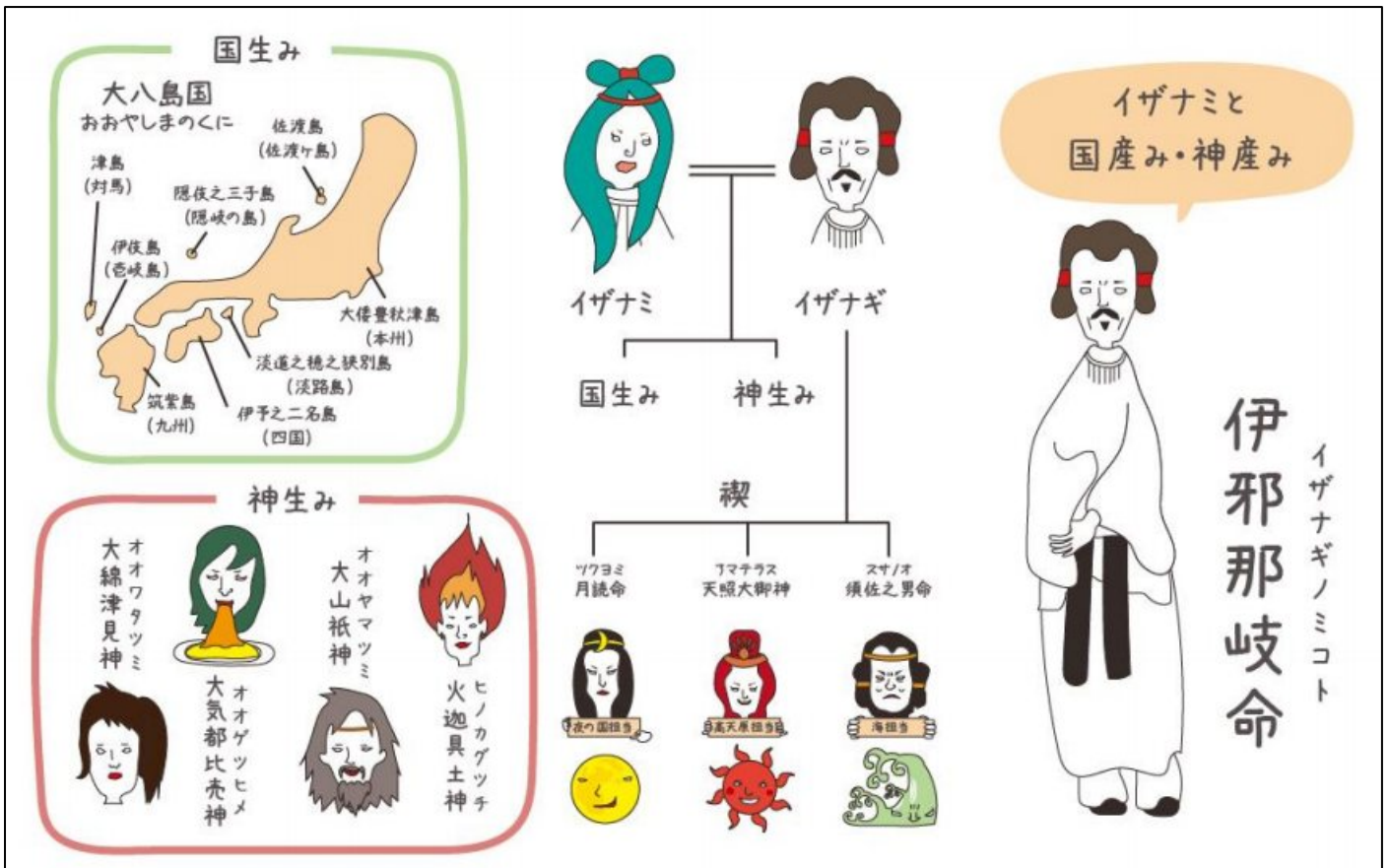
イザナミと共に日本の国土を生み出した男神。最古の夫婦神で、多くの神々を生み出したことから夫婦和合、縁結びの神様としても知られる。また、国土から自然といった世界を創り出していったことから殖産振興の神様として知られ、更には歴史上はじめての禊(みそぎ)をされたことから、厄除けの神様としても知られている。

イザナギの妻であるイザナミが「ヒノガクツチ」を産んだことでヤケドを負

って死んでしまうが、イザナギは**黄泉の国**を訪れるほどイザナミを愛していたと言われ、厄除けの神以外にも恋愛成就、子孫繁栄、殖産振興などのご利益もあげられる。



イザナギ・イザナミの系譜イラスト図



イザナギ・イザナミを祀る三峰神社

景行天皇の時代(71年~130年)に、ヤマトタケル尊が東征の際、碓氷峠に向かう途中で三峯山に登り、イザナギ・イザナミの国生みを偲んで三峰神社を創祀したという。社地を囲む妙法・白岩・雲取の3つの峰が秀でていたので「三峯」の名が付いたという。



★伊邪那美神(古事記)・伊弉冉神(日本書紀)(イザナミ)

イザナギの妻で、多くの神々を産み落としたことから、子宝や安産祈願の神として信仰されている。イザナミが祀られている神社では、ご祭神としてイザナギも一緒に祀られることも多い。また、イザナミは黄泉津大神(よもつのおかみ)の別名を持ち、黄泉国すなわち冥界の女王という側面も持ち合わせている。

イザナミは、たくさんの神様を産むが、ヒノカグツチを産んだことで死んでしまい、黄泉の国に行ってからイザナギに会うために努力をする健気な妻だったという。



イザナミを祀る神社

イザナミを祀る神社は、イザナギと共に国生みでつくり上げた最初の国土、おのころ島(淡路島)であると言われる。セキレイ石と呼ばれる石があり、つがいのセキレイが止まり御祭神の二神に「交(とつぎ)の道」を教えたとされている。

★天照大御神（古事記）・天照大神（日本書紀）（アマテラスオオミカミ）

八百万の神々で最高位に位置しているのがアマテラスで、イザナギの左目から生まれたという。その後、天上世界を治める太陽を司る女神となり、現在は伊勢神宮の内宮を代表として全国に祀られている。

また、アマテラスは天皇の祖神であり、日本で最も重要な神様の一つとして、あらゆる願いを聞きとどけるとし、諸願成就の神様として知られる。

太陽の女神

高天原を統治することになったアマテラスは、太陽の神となる。スサノオの乱暴によって岩戸崖に身を隠した時、世界は闇に覆われたという。



アマテラスを祀る神社

伊勢神宮

鎮座より2千年の歴史を誇り、内宮と外宮の正宮を中心に、全部で125社で構成される日本最大の神社。2013年は20年に一度正宮を立替え神様のご神体を遷す「式年遷宮」の年に当たったので、例年以上に参拝者が集まった。



★建速須佐之男命（古事記）・素戔鳴尊（日本書紀）（スサノオノミコト）

太陽神アマテラスと共に生まれたスサノオは暴風の神として、厄払いの神様として信仰されている。荒々しい乱行によって天上界より追放されるが、ヤマタノオロチ退治に成功するなど正義感が強く知恵者としての一面も持っており、多面性ある神ともいえる。こうした英雄的側面を以って、武の神としても崇められることもある。



スサノオを祀る神社 武蔵一宮氷川神社

日本屈指の古社は、今から2千4百年余り前の第5代孝昭天皇の代に創立され、聖武天皇の代に各国に一の宮の制度を定めた時、武蔵一の宮に称されたと伝えられる。大宮の地名は、氷川神社を「大いなる宮居」と崇めたことに由来する。



★月読命（古事記）・月夜見尊（日本書紀）（ツクヨミノミコト）

アマテラス、スサノオと共にイザナギの禊から生まれた三貴神のひとつで、月を司る。または夜を統べる神として崇められ、かつては月の運行に基づく太陰暦を用いられたことから、月の暦を数える神と評されることもある。

また、こうした名の元、月を「ツキ」といい、運を呼び込む神とも考えられる。代表的な神社は「月山神社」と言われる。

代表的なご利益 家運祈願 代表的な神社 月山神社



ツクヨミのミコトイラスト

月山神社を望む



★火之迦具土神(古事記)・軻偶突智(日本書紀)(ヒノカグチ)

イザナギとイザナミが神生みで産んだ火の神。その火が原因でイザナミはやけどをして亡くなってしまった。火を扱う業者からの崇敬が高く、鍛冶業や焼き物業といった業者から高く崇敬された。また、火事を抑える役割として祀られることもあり、木造家屋が多い構造上、火事に敏感であったことが伺える。

代表的なご利益は、「家内安全」

代表的な神社は、愛宕神社



万物の根源を示すと言われる三柱

★「^{あめのみなかつかみ}天之御中主神」「^{たかみおすびかみ}高御産巢日神」「^{かみおすびかみ}神産巢日神」(古事記)

★「^{あめのみなかつかみ}天御中主尊」「^{たかみおすびかみ}高皇産霊神」「^{かみおすびれいみこと}神皇産霊尊」(日本書紀)

古事記で、**天地開闢の時に最初に生まれたとされる三柱の神々**。これらの神々は万物の根源を示すとされ、宇宙の起源とも伝えられる。中でも「アメノミナカヌシ」は、妙見信仰や北極星信仰とも習合し、その中心的役割を果たし、「タカミムスビとカミムスビ」は「結び」の語を含むことから「良縁」を期待されるようになった。

ご利益は、「健康長寿」「良縁祈願」「生産の神」と言われ、良縁祈願は、恋愛だけでなく人や仕事など様々な事柄を結びつけるという意味がある。



★「思金神」(古事記)・思兼神(日本書紀)(オモイカネの神)

様々な場面をサポートする天界の策士家

天岩戸伝説で、アマテラスを岩戸から救出する際のシナリオを考えた知恵の神。出雲の国譲りでも派遣する神々の選定を行ったり、ニニギの天孫降臨でそのサポート役を担ったりするなど、重要な節目に登場をする。その相談役的な立場と英才ぶりから知恵を司ると考えられ、学業祈願や合格祈願に求められる。

代表的なご利益 学業祈願・合格祈願

代表的な神社 「秩父神社」



★天見屋根命(古事記)(アメノコヤネのミコト)

日本書紀には記載なし。

アマテラスを占いで岩戸屋から出した立役者

天岩戸伝説で、フトダマと共に占いをを行い、岩戸の前で祝詞を奏上した神。そのため祝詞、言霊の神と評される一方、中臣連の祖とされ、中臣鎌足を代表とする藤原家に氏神として崇敬された。藤原家の栄華にあやかり「出世を司る神とするという側面がある。

代表的なご利益は、出世開運

代表的な神社は「枚岡神社」



★「天手力男神」(古事記)・天手力雄神(日本書紀)(アメノタジカラヲのカミ)

力持ちの象徴で、天岩戸を戸隠まで蹴り上げた神

天岩戸伝説で、天岩戸の中に閉じこもったアマテラスを外の世界に引きずり出した神。このため「筋力の神」と称えられ、スポーツの神とされている。二度とアマテラスが岩戸の中に閉じこまないよう、遠くに蹴り上げた岩戸が「戸隠山」になったという。

代表的なご利益は、スポーツ勝利祈願
代表的な市内神社は、惣社戸隠神社



天手力男神のイラスト

惣社戸隠神社拝殿建物



★「布刀玉命」(古事記)・「太玉命」(日本書紀)(フトタマのミコト)

占いの神で、末裔は祭祀を司る氏族となる

天岩戸伝説で、オモイノカネが考案した策の善し悪しを判断するため、アメノコヤネと共に、太占(ふとまに)と呼ばれる占いを献じた神。このため、祭祀(神事)や占いを司る神とされる。その末裔は、その後も朝廷の祭祀を司る氏族として要職を兼ねていったといわれる。ある意味「神主」を象徴する神といえる。

代表的なご利益「所願成就」 代表的な神社は「安房神社」



布刀玉命のイラスト

房州安房神社の本殿



★「玉祖命」(古事記)(タマノオヤのミコト)・日本書紀記載なし

八尺瓊瓎勾玉をつくり現在は眼鏡の神になった

八尺瓊瓎勾玉を創った神で、天岩戸伝説ではそれを榊にかけ御幣として捧げ持った。また、タマノオヤが没したと伝えられる玉祖神社では、眼鏡のレンズにあたる部分を「玉」と呼んでいたことから「眼鏡の神」としても知られ、毎年眼鏡業者による古い眼鏡のフレーム供養である「玉の祭り」が行われている。

代表的なご利益は「所願成就」

代表的な神社は「玉祖神社」



★天宇受売命(古事記)・天鈿女命(日本書紀)(アメノウズメのミコト)

神楽のルールと言われ神で、神々を沸かせた踊り子

芸能を司る神として有名。岩戸に隠れたアマテラスを救出する際に上半身を裸で踊り、八百万の神を沸かせたことにちなむ。また、この時踊った踊りが石見神楽のルーツとされる。国内で見られた初めての踊り子と言われることもあり、様々な芸能関係者から篤い崇敬を集めている。

また、猿田彦の妃神とされることから、一緒に祀られることもある。

代表的なご利益 「芸能上達」

代表的な神社 「佐瑠女神社」



★「表筒男命」(ウワツツオのミコト) (日本書紀では記入はない)

★「中筒男命」(ナカツツオのミコト)

★「底筒の命」(ソコツツのミコト)

イザナミの禊ぎで誕生した水の神

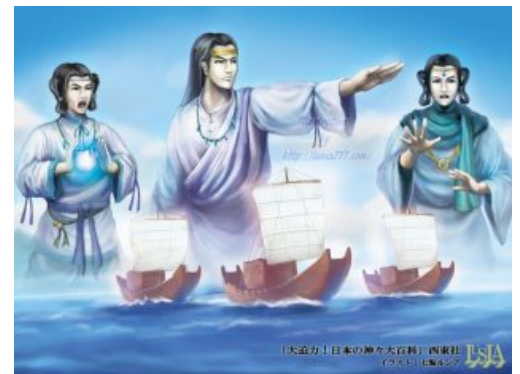
イサナギが黄泉の国から逃げ帰り、けがれを払おうと行った禊ぎの際に、水中より化成した三柱の神々。

中でも神功皇后が三韓征伐に出兵した折に、この住吉大神の加護が大いなる戦果をもたらし、その航海の無事が認められたことから、海の神、航海の神として篤い崇敬を集めるようになった。

代表的なご利益 **住吉三神が祀られている住吉系神社は、航海安全の神として祀られる。**

住吉大社は、神功皇后(応神天皇の母)が、西暦211年に住吉三神をこの地に祀ったことが起源とされる。

神功皇后を祀る古い神社の代表とされ、八幡神の祖神とされている。また、「住吉造」と言われる本殿は、神社建築史上最古の特殊様式で国宝に指定されている。



★大国主命（古事記・日本書紀）（オオクニヌシのミコト）

大地に国を創った出雲大社のご祭神

出雲に大国をつくった国づくりの神である大国主神はスサノオの子孫で、**因幡の白兔を助けた心優しい神様として有名**。スサノオが与えた数々の試練を見事に切り抜け、葦原中国の支配者になった。また各地に恋愛伝説もの残しており、多くのご縁にめぐまれたことから「良縁祈願」の神としても信仰されている。出雲の国づくりをしたことから、「地の神」とも言われる。この時造化の三神の一つである神結びの子である「スクナビコナ」も一緒に国をつくっている。



主なご利益 縁結び・子授かりの神・夫婦和合・五穀豊穰・養蚕守護・医薬・病気平癒・産業開発・交通安全
航海守護・商売繁盛など万の神様です。

代表的な神社 出雲大社ですが、神無月（10月）に全国の神様が終結する神社で、本殿は日本最古の神社建築様式とされている大社造りで、国宝に指定される。また、神楽殿の入口にあり日本一の大きさを誇る注連縄は圧巻です。

市原市内の神社 府中日吉神社



能満府中日吉神社



★宇迦之御魂神（古事記）・倉稲魂命（日本書紀）（ウカノミタマのミコト）

五穀豊穰の神様で商売繁盛の御利益もある全国各地に数多くあるお稲荷さんで知られる稲荷神社の祭神が、この「ウカノミタマのカミ」です。「ウカ」とは穀物を意味し、その魂を表す。そのため五穀豊穰を司り、途中からお稲荷さんを信奉した商人が成功をおさめていたことから、商売繁盛の神様として広く崇められている。

代表的なご利益 商売繁盛
代表的な神社 伏見稲荷大社

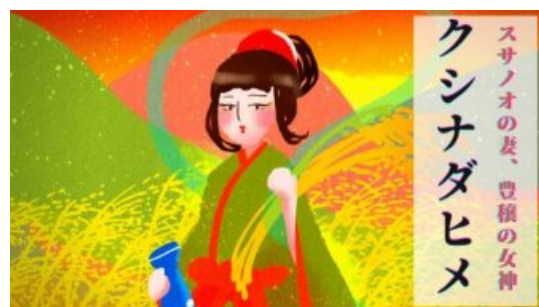


★櫛名田比売（古事記）・奇稲田姫（日本書紀）クシナダヒメ

スサノオが八岐大蛇から助けた女神

八岐大蛇伝説で、スサノオがオロチから救うことを条件に妻に迎えられた女神です。その名が「奇し稲田」と表されることから「稲田の女神」とされるが、**スサノオが八岐大蛇に挑むとき櫛に姿を変えたので、櫛を挿した女性、すなわち「巫女」を意味したのではないかと**いわれる。通常スサノオと共に祀られる。

代表的なご利益 五穀豊穰
代表的な神社 川越氷川神社



★少名毘古那神(古事記)・少彦名命(日本書紀)スクナビコナのみこと

温泉・医療・酒造など各地の産業神として崇高される。

オオナムチと共に出雲建国に邁進したパートナーで、大国主の「大」少名毘古那神の「少」は一對を表しているといわれる。一つの物事をやり遂げる協力神とされ、各地で産業の振興を導いたことから、医療や穀物、温泉、酒造の神と評されることも多い。また常世の神とも言われる非常に幅の広い神という。

※一寸法師のモデルとなった神とも言われる。

代表的なご利益 殖産振興

代表的な神社 秩父御嶽神社



★事代主神(古事記)・日本書紀記載なし(コトシロヌシのみこと)

釣り好きの豊漁の神。えびす様とも呼ばれる。

「事を知る」神とされることから、何かしらの出来事を意味する。託宣の神とされている。しかし出雲の国譲りの際に釣りをしており、釣りの神が転じて「豊漁の神」として崇められることが多い。

七福神のえびす様と同一視され、商売繁盛の神様として崇められることの方が一般的になっている。

代表的なご利益 豊漁祈願

代表的な神社 恵比寿神社



★多紀理毘売命(タキリビメのみこと)・市寸島比売命(イチキシマヒメのみこと)・多岐都比売命(タギツヒメのみこと)(古事記)

★田心姫神(タギリヒメのみこと)・市杵嶋姫命(イチキシマヒメのみこと)・

★湍津姫命(タギツヒメのみこと)(日本書紀)

スサノオの剣から誕生した三柱の水の神様

アマテラスとスサノオが誓約を交わした時に、スサノオの剣から化成した三柱

の女神が現われた。元々、**玄界灘の海上交通を守護する女神**であったが、イキシマヒメがインドの河神を元とする弁財天と習合したことにより、水の属性を強め、立地的に水にまつわる場所を中心に祀られるようになっていった。

航海の神として、朝鮮への海上交通の平安を守護する玄界灘の神として大和朝廷によって古くから重視された。

弁財天と同一視されることもあり、財宝の神とも言われる。

代表的なご利益 航海安全・金運アップ

代表的な神社 宗像神社ですが、沖ノ島の沖津宮・大島の中津宮・九州本土の辺津宮の三宮の総称で、総社・摂社において宗像三女神を祀っており、別名「道主貴(ミチヌシノムチ)」と呼ばれる。

芸道・武道などの国民に関わる全ての道を司る神とされる。



★ 建御名方神(古事記)・日本書紀記載なし (タケミナカタのミコト)

武田信玄も崇敬した武の神様

大国主の御子神で、出雲の国譲りの時に武の神タケミカヅチに果敢にも挑み、諏訪の地に封じ込められてしまった神。この為劣勢の状況でも容易には屈しない、強い武威を示す神とも言え、**敗北を喫した神でありながら日本三軍神に入り、武田信玄をはじめとした戦国武将にも崇敬された。**

代表的なご利益 武勇掲揚

代表的な市内神社 原田 諏訪神社



★建御雷之男神(古事記)・武甕槌神(日本書紀)(タケミカヅチのミコト)

相撲の祖神

アメテラスより出雲に遣わされた神で、応戦してきたタケミナカタを投飛ばした様から「相撲の祖」と言われる。またその名が「雷」を意味するところから雷が空を裂く一筋の太刀を意味合いに示し、剣の神という性格が加わり、フツヌシと共に「武運長久」「必勝祈願」の神として、武道場に良く祀られることが多い。

代表的なご利益 武運長久

代表的な神社 鹿島神宮



★瓊瓊杵尊 (ニニギのミコト)

古事記では、天邇岐志国邇岐志天津日高番能邇邇芸命

日本書紀では、天饒石国饒石天津日高彦火瓊瓊杵尊

アマテラスの孫にあたる神で、宮崎の高千穂に降臨した天孫降臨伝承は有名。

名は「天地が豊かに賑わう神」を意味し、降臨の際に稲作をこの地上にもたらし、

産業における農業の神としての性格面が強い。この為、御神徳には五穀豊穡や商売繁盛、国家安寧、殖産振興などが挙げられる。

代表的なご利益 五穀豊穡

代表的な神社 霧島神宮

市原市内の神社 高瀧神社



★猿田毘古神 (古事記)・猿田彦命) 日本書紀 (サルタヒコノミコト)

天孫降臨の道先案内人

ニニギが天孫降臨を果たすとき、道案内役をかって出た神です。それが転じて進むべき道を照らす道開きの神とし篤く崇敬されている。その為、村の道の分岐点によく

祀られる道祖神と同一視されることも多く、異形の姿をしていることから一部には天狗説の原点、渡来系の神と目されることもある。

代表的なご利益 万災解除

代表的な神社 椿大神社



★木花之佐久夜毘売 (古事記)・木花開耶姫 (日本書紀) (コノハナノサクヤビメ)

火難の神として富士山に祀られた美神

火中で出産するという強さを持つ女神で、そのような状況でも無事に出産したことから

「安産の神」また「火の神」として、富士山に祀られるのが「コノハナノサクヤビメ」です。

桜の美しさを体現している神様として、コノハナノサクヤビメを祀る富士山本宮浅間大社は、現在桜の名所にもなっている。

代表的なご利益 安産祈願

代表的な神社 富士山本宮浅間神社



★石長比売 (古事記)・磐長姫 (日本書紀) (イワナガノヒメ)

神々の寿命が出来たのはこの神が原因と言われる。

大山祇命 (オオヤマツミノミコト) の娘で、コノハナノサクヤビメの姉にあたる。岩石を司る女神とされることから、頑強、永遠の神とされている。そもそも神々に寿命が出来たのは、ニニギが嫁を迎える際にコノハナノサクヤビメと共に姉の磐長姫を娶らなかつたことから、繁栄の永続性が失われたと

いう。

代表的なご利益 健康長寿 代表的な神社 石神社



★大山津見神(古事記)・日本書紀には記載なし(オオヤマツミのミコト)

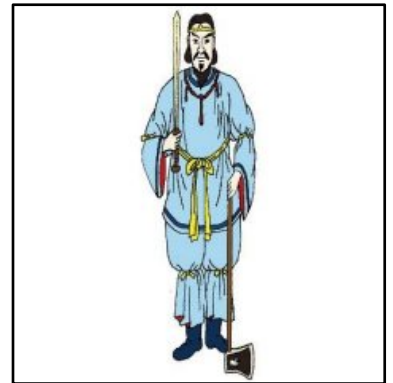
大らかで雄大な山の神

イザナギとイザナミの間に生まれ、山の総元締めといえる自然神。山は数々の恵をもたらすことから、恵みの神とて金運や商売に繋がられる。また娘の「コノハナノサクヤビメ」が結婚した際、宴で酒を振舞った為酒造の神という面もある。

雄大なイメージがあり軍神としても崇められるなど幅広い信仰がある。

代表的なご利益 金運招福

代表的な神社 大山祇神社



★綿津見神(古事記)・日本書紀には記載なし(ワタツミのミコト)

謎が多い神で、その実態は海の神か?

ワタツミの名を持つ神は複数登場する為、その実態はよくわかっていない。

大山祇神が山の神であることに対する海の神であるという認識が高く、一部には山幸彦・海山彦伝承の「トヨタマビメ」の父にあたる「ワタツミノオオカミ」が同神であるとも。

海人族の阿曇氏はワタツミを祖神としている。

代表的なご利益 豊漁祈願

代表的な神社 沼名前神社



★塩津神(古事記)・塩土老翁(日本書紀)(シオツチのミコト)

潮の流れを司る海の道先案内人

海彦山彦神話で、兄ホデリから借りた釣り針をなくして途方に暮れていたオホリを、海神ワタツミの宮にまで案内した神。その名からも潮の流れを司る神として、海の道先案内人として、道を示す神として崇められている。

また、人に製塩の方法を授けたことから製塩業の神としての役割も担う。

代表的なご利益 潮流の神と開運招福

代表的な神社 鹽竈神社(しおがま神社)



★経津主神(日本書紀)・古事記には記載なし(フツヌシのミコト)

日本書紀にのみ登場する武の神様

タケミカヅチと共に、東方を制圧した武の神。古事記では、タケミカヅチと同一視される物語には登場せず、日本書紀のみの登場となる。その性質は、刀剣を神格化したものであるとされ、一説によればフツヌシの「フツ」は刀で物を切る音の擬音を示しているものと言われる。

代表的なご利益 武勇長久

代表的な神社 香取神宮



★菊理媛神（日本書紀）・古事記には記載なし（ククリヒメのミコト）

人やコトの間をとりもつ交渉の達人

古事記には登場せず、日本書紀の一書きにのみ登場する女神で、イザナギとイザナミが黄泉の別れに臨もうとした時にその仲裁を果たした役割から、**男女の仲を取り持つ縁結びの神**や**事業の商談成立の神**と言われる。

また、死者のイザナミと生者イザナギを取り持つ関係からシャーマンの元祖と言われることもある。

代表のご利益 交渉の女神で良縁祈願

代表的な神社 白山比咩神社（シロヤマヒビ）



★大山咋神（古事記）・（日本書紀）（オオヤメクイのミコト）

要地を守る頼もしい守護神

オオトシガミの御子神にあたり、山に杭を打つというイメージから、**土地の所有を示す地主神**とされた。比叡山延暦寺の守護に始まり、京の都や江戸の鬼門を守護する役割を担ったことから、要地の守護に用いられることが多い。

それが転じて、家内安全や地域鎮護の神として篤い崇敬を集めて来た神。

代表のご利益 家内安全

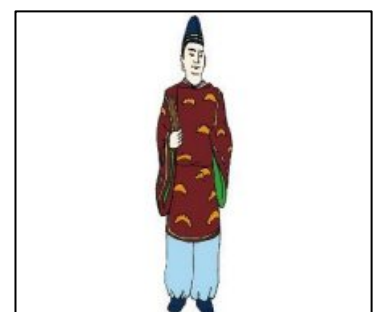
代表的な神社 日枝神社



★賀茂別雷神（古事記・日本書紀に記載なし）（カモワケイカツチのミコト）

雷のエネルギーを宿したパワフルな農業の神

記紀神話には登場しない地方神の一つで、山城の賀茂系の系譜にあたる氏族神です。雷を司る神とされるが「ワケ」が「若い」という意味があることから、若いエネルギーを蓄えた雷の神と伝えられる。また「ワケ」を雷を裂くとする解釈もあり、結果、雷は五穀豊穡をもたらすため総じて**農業神**といえる。



★神武天皇(神倭伊波礼毘古命・古事記)・(神日本磐余彦尊・日本書紀)(カンヤマトイワレビコノスメラミコト)

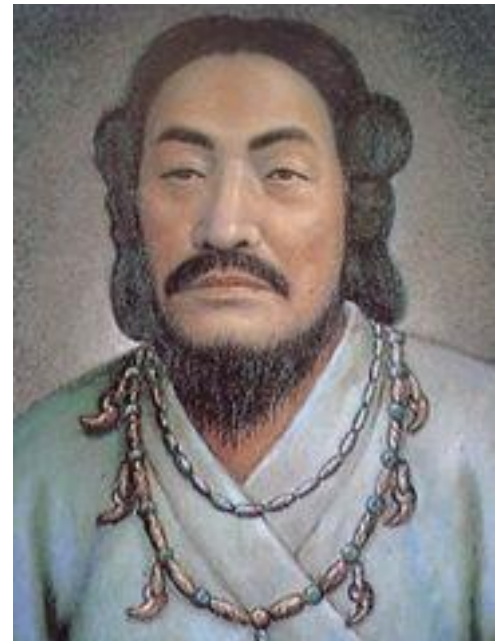
神を統合した日本国の創始者

高天原を治める**天照大御神の子孫**である神倭伊波礼毘古命(後の神武天皇)は、日向の高千穂宮で世の中をうまく治めるために東へ行くと言って、豊国(大分)、筑紫(福岡)、阿岐国(広島)、吉備(岡山)を経て、海路で浪速(大阪)に上陸した。そこで、登美能那賀須泥毘古(トミナガスネビコ)に敗北してしまい、兄の五瀬命は受けた傷がもとで亡くなってしまった。南に迂回して紀ノ國の熊野に再度上陸するが、そこで現れた大熊の毒気に当てられ、一行はバタバタと倒れてしまった。

そこで天照から夢のお告げにより授けられた剣を高倉下(たかくらじ)が献上すると皆、正気を取り戻した。そして道案内の八咫鳥(やあたらす)に導かれて吉野に入り、現地の反対勢力を倒して、倭の畝火の橿原の宮で、海、山と言った大自然の神々の系譜も取り込み、さらに国津神の末裔と婚姻を果たし、**初代の神武天皇**として即位したという。

代表的なご利益 国家安寧

代表的な神社 橿原神宮



★神功皇后(ジングウコウゴウ(息長帯比売命(・古事記)・(氣長足姫尊・日本書紀) オキナガタラシヒメのミコト

女性ながらも果敢に戦いに望む皇后

第15代応神天皇の母にあたり、神託に従い「三韓征伐」を成し遂げた勇ましい武の側面をもつ仲哀天皇の皇后。

危険な状況の中でも無事に応神天皇を出産し、立派に育て上げた経緯から、安産祈願や子育て大願に用いられる事が多い。かつては、国内初の紙幣の肖像画にも迎えらるほどの人気を誇る。

代表的なご利益 子育て大願

代表的な神社 筥崎宮



★応神天皇・オウジンテンノウ(品陀和氣命・古事記)・(誉田別命・日本書紀)・ホムダワケのミコト

精力的に領地を拡大し、武将も崇敬した天皇

鶴岡八幡宮など多くの八幡神社の御祭神として祀られているのが、神功皇后の御子である応神天皇です。古事記の中では頻りに巡行し、領地の視察や婚姻による新たな氏族と繋がるなどの武勇伝が多くあり、出世や成功、家運隆昌の象徴として源氏の氏神にもなっている。今でも信仰を集める人気の神様の一人です。

代表的なご利益 出世開運

代表的な神社 宇佐神宮



★倭建命(古事記)・日本武尊(日本書紀)・ヤマトタケルのミコト

どんなピンチでも機転を利かせて切り抜ける神

第12代景行天皇の皇子。この時代の戦果は著しく、ピンチが迫っても数々の機転で乗り越えてきたため「難局打開の神」として英雄視されることも多い。また、敵の火計を内側からの火を起すことで切り抜けたことで、「**火防の神**」の性格をもつ。一説には、酉の市はヤマトタケルの命日であることも伝えられる。古事記と日本書紀で人物像も分かれる事や、その系譜は知名度抜群でありながら謎多き神様でもある。

代表的なご利益 難局打開・火災予防

代表的な神社 浅草鷲神社



浅草鷲神社

今津朝山鷲神社



ここで紹介した神様や神社は、神代の時代から言い伝えられている古事記や日本書紀を参考に編集したものです。

表現等につきましては、編集の段階で一部修正してありますが、内容については変わらないようにしています。

市原市内にもこれらの神たちが祭神として祀られた神社も多くあります。皆さんの地元の神社にはどの神様が祀られていますか。あなたも調べてみませんか。

市原市内の神社に祀られている神々は、

伊邪那岐・伊邪那美・天照大神・素盞鳴尊・誉田別命・大国主命・阿須波神、日本武尊・大山咋命・大山祇命・倉稻魂命・天見屋根命・宇迦之御魂大神・市杵比売命・木花咲耶毘売命・国常立命・志那戸弁命・志那都比古命・事解之男命・国狭槌尊・別雷電神・天思兼命・速玉男之命・綿津見命・面足命・菅原道真公・経津主命・大鷦鷯命・菊理媛命・大宮姫命・皇産魂命・そのほかの神々があります。

神様の敬称について

御祭神の名の末尾には、大抵「命」や「尊」という文字が敬称として使われることが多く、文字に相違があっても読み方はどちらも「ミコト」と呼びます。全く同一の御祭神でも、お祀りしている神社によって御祭神の末尾が「命」や「尊」・「神」であったりします。また、スサノオのミコトのように「須佐之男命」「素盞鳴尊」「須佐之男神」と三つの敬称が使われることもあります。では、「命」「尊」「神」は、具体的にはどう違うのでしょうか。日本書記の説明では、「尊」は天津神（高天原にいる神々、高天原からこの地に降臨された神々）や皇室の祖先の神々に対して用いられ「命」はその他の神々（高津神が降臨される以前から地上に土着していた国津神）に対して用いられると記されている。実際、日本書紀ではその説明に従って「命」と「尊」が使い分けており、国常立尊、伊弉諾尊、伊弉冉尊、素盞鳴尊などの神々の中でも特に至貴には「尊」の敬称がつかわれている。しかし、その使い分けはあくまでも日本書紀で採用されている解釈で、古事記では「命」の敬称が使われており、「尊」は一切使われていない。また、「神」と「命」の敬称をそれぞれ持っている神様の場合は、主に神社の祭神として神徳を発揮される時は「神」という敬称が用いられ、神話などに於いては、時に失敗したり罪を犯したりする人間的な側面を発揮される時には「命」という敬称が使われることが多い。伊邪那岐と伊邪那美の両神様の場合、古事記では初登場時は共に「神」の敬称が付けられていますが、天津神の命令を錫った直後からは「命」という敬称に変化している。この場合の敬称の変化は、天津神の命令＝ミコトを賜ったことに因ります。



市原市内の神社と祭神一覧

所在地	神社名	祭神	地区	神社名	祭神
市原地区			菊間地区		
市原1番地	市原八幡神社	誉田別命	菊間2341-1	阿波能須神社	天比理刀咩命
市原26番地	阿須波神社	阿須波神	草刈1335	大宮神社	大宮姫命
郡本1-430	郡本八幡神社	誉田別命	古市場29	八坂神社	素盞鳴命
能満589-2	府中日吉神社	大国主命	古市場116番地	天神社	菅原道真公
能満679	能満天神社	菅原道真	市東・湿津地区		
山田橋3-11-19	稲荷神社	宇迦之御魂大神	犬成713	犬成神社	大山咋命
八幡地区			潤井戸684	白幡神社	誉田別命
五所474	若宮八幡神社	誉田別命	大作323	大作神社	大山咋命
旧五所金杉	五所八幡神社	源頼朝公	荻作265	荻作神社	大雀命
五所1616	春日神社	天兒屋根命			中将実方朝臣
五所1630	日吉神社	於保屋満久比命	押沼236	押沼神社	大和武命
五所1565	大宮神社	大宮売命	小田部351	熊野神社	伊邪那美命
五所1740-1	磯辺神社	塩土老翁命			速玉男命
五所40	稲荷神社	稲倉魂命	勝間387	日枝神社	大山祇命
五所1639	神明神社	大日靈貴命	神崎732	稲荷神社	宇迦之御魂命
山木243	白幡神社	誉田別命	喜多151	喜多神社	大山咋命
八幡1057	飯香岡八幡宮	誉田別命	久々津552	諏訪神社	建御名方神
	息長帯姫命	玉依姫			下照姫命
八幡1328	稲荷神社	宇迦能魂命	古都辺285	古都辺神社	大山咋命
八幡北町3-9	神明神社	天照大神	金剛地208	熊野神社	伊邪那美命
八幡1057	六所御影神社	伊弉諾命		速玉男命	泉津事解男命
		大日靈貴命	金剛地1128	皇大神宮	天照皇大神
		布留大神	下野248	浅間神社	木花佐久夜毘売命
		天照皇大神	瀬又89	八幡神社	誉田別命
八幡1027	巖島神社	市杵比賣命	高倉289	白山神社	伊邪那岐命
八幡1034	八坂神社	須佐之男命			
八幡1124	山祇神社	大山咋命	高田186	日枝神社	大山咋命
八幡1179	大海住神社	大海住神	滝口57	諏訪神社	建御名方神
八幡石塚2-2	庚申神社	猿田彦命	中野208	白山神社	伊邪那岐命
八幡3-2	猿田彦神社	猿田彦命	奈良109	八幡神社	誉田別命
菊間地区			永吉115	平野神社	仁徳天皇
大厩1161-3	琴平神社	金山彦命			大山咋命
大厩947	駒形神社	保食神	葉木658	妙見神社	天之御中主命
	稲倉魂命	大宮姫命	番場106	番場神社	大山咋命
	大己貴尊	太田姫命	東国吉303	八幡神社	誉田別命
菊間3169	若宮八幡神社	建甕槌神			
		日本武尊			
若宮7-2-11	菊間弁財天	市杵島姫命			

市原市内の神社と祭神一覧

所在地	神社名	祭神	所在地	神社名	祭神
五井地区			国分寺台地区		
岩野見439	岩野見社	水波女命	加茂2-5-2	加茂神社	別雷電神
岩崎2-12	巖島神社	市杵嶋姫命	西広6-14	前廣神社	大山祇命
岩崎1-36-5	稲荷神社	倉稻魂命	総社4-9-18	戸隠神社	天思兼命
君塚1-28-23	稲荷神社	倉稻魂命			天手力雄命
君塚5-24-15	白幡神社	日本武尊 右大将頼朝			天表春命
五井中央南1-20	大宮神社	国常立命 天照皇大神 大己貴命	姉崎地区		
			深代554	熊野神社 伊弉諾尊	速玉男之命 事解之男命
五井5024	若宮八幡神社	大佐佐気命	千種地区		
五井6449	稲荷神社	倉稻魂命	青柳539	若宮八幡神社	大鷦鷯命
五井3389	阿波須神社	阿波須権現	青柳1119	稲荷神社	豊受比賣神
五井4646	熊野神社	素戔鳴命	青柳3-5-11	浅間神社	木花佐久夜毘賣命
玉前136	稲荷神社	倉稻魂命	青柳2-1-5	船霊神社	大綿津見命
出津102	八雲神社	素盞鳴命	青柳2059	八雲神社	建速須佐之男命
平田842	大宮神社	国常立命	今津朝山426	鷲神社	天日鷲命
村上1097	白幡神社	日本武尊 源頼朝公			今津朝山540
姉崎地区				経津主命	天兒屋根命
姉崎2278	姉崎神社	志那斗弁命	柏原129	柏原神社	宇賀之御魂命
	日本武尊	天兒屋根命	白塚503	稲荷神社	倉稻魂命
姉崎68	稲荷大明神	倉稻魂命	松ヶ島1	養老神社	大山咋命
姉崎344	稲荷神社	倉稻魂命	三和(海上地区)		
姉崎1234	白幡神社	誉田別命	浅井小向69	諏訪神社	建御名方命
姉崎1998	神明神社	大日靈貴命		浅井小向317	
	倉稻魂命	大山咋命	日吉神社		大山咋命
姉崎2489	菅原神社	菅原道真公	安須756	安須日枝神社	大己貴命
天羽田1265	天照大神	大日靈命		山祇神社	面足尊
不入斗189	小鷹神社	日本武尊		惶根尊	応仁天王
不入斗1402	熊野神社	伊弉諾命	系久342	諏訪神社	建御名方命
	速玉男之命	事解之男命			八坂刀売命
片又木317	十二社神社	伊弉册命	高坂387	玉前神社	玉依姫命
椎津230	八坂神社	建速須佐之男命	権現堂16	八坂神社	高皇産靈神
椎津2412	椎津山谷稲荷神社	倉稻魂命			神皇産靈神
立野12	大国主神社	大国主命	宮原436	大国主神社	大国主命
豊成459	豊成八幡神社	誉田別命	分目266	雷公大明神	別雷神
畑木456	畑木神社	国狭槌尊			
迎田116	大宮神社	国常立命			

市原市内の神社と祭神一覧

住所	神社名	祭神	住所	神社名	祭神
三和(市西地区)			三和(東海地区)		
相川98	石神社	倭建命	西野238	熊野神社	伊弉諾尊
海士有木147	日枝神社	大己貴神		速玉男命	和津事解男命
海士有木1566	八坂神社	素戔鳴尊	野毛180	白幡神社	大鷦鷯命
海士有木1713	大宮神社	大己貴神	引田114	諏訪神社	建御名方命
大坪636	諏訪神社	建御名方命			八坂刀売命
武士204	建市神社	建市大明神	町田542	熊野神社	伊邪那美命
新堀1366	八幡神社	誉田別命		速玉男尊	豫母都事解男命
福増851	白山神社	白山姫命	柳原18	大鷲神社	天日鷲尊
山倉765	春日神社	天兒屋根命			
三和(養老地区)			南総(牛久地区)		
新巻38	熊野神社	伊弉冊命	牛久175	丸山神社	天照皇大御神
	速玉男命	事解男命	牛久522	三嶋神社	大山祇命
磯ヶ谷1498	八幡神社	誉田別命		木花咲屋姫命	磐長比咩命
大桶275	日枝神社	大山咋命	大蔵136	大蔵神社	天忍穂耳尊
川在1032	大宮神社	大宮姫命	金沢82	白山神社	菊理媛命
土宇1479	玉崎神社	前玉姫	佐是299	八幡神社	誉田別命
櫃挾143	櫃挾神社	大己貴尊	中60	八幡神社	誉田別命
二日市場839	八幡神社	誉田別命	西国吉209	國吉神社	大己貴命
二日市場602	熊野神社	伊弉冊命	奉免44	苗鹿神社	大鹿理命
	速玉男命	事解男命		武甕槌命	経津主命
松崎859	春日神社	天兒屋根命	奉免1377	熊野大権現	伊邪那岐命
	天武雷命	天照大神		伊邪那美命	速玉男命
山田116	山田神社	伊弉諾尊	妙香1369	大宮神社	大名持命
		伊弉冉尊	藪644	八幡神社	誉田別命
三和(東海地区)			藪385-1	浅間神社	木花咲耶姫命
飯沼19	春日神社	経津主命	皆吉72	御嶽神社	日本武尊
		天兒屋根命 建御雷之男命 比賣大神	皆吉1282	熊野神社	伊弉諾命 伊邪冊命
今富742	八幡神社	誉田別命	皆吉1834	鹿島神社	武甕槌神
海保879	海保八幡神社	誉田別命	南総(戸田地区)		
		大山咋命	上原204	春日神社	武甕槌命
神代265	神代神社	天照大日靈尊		天兒屋根命	齋主命
小折4	大宮神社	大己貴命	馬立61	根元神社	天神七代
島野1129	島穴神社	志那都比古命	馬立76	天津日神社	地神五代
	日本武尊	倭比売命			天大日靈命
十五沢193	白幡神社	大鷦鷯命	馬立1609	大宮神社	大宮姫尊
廿五里86	若宮八幡神社	大鷦鷯命	馬立1167	熊野神社	伊邪冊尊

廿五里1386	宇佐八幡神社	誉田別命		速玉男命	事解男命
---------	--------	------	--	------	------

市原市内の神社と祭神一覧

住所	神社名	祭神	住所	神社名	祭神
南総(戸田地区)			南総(鶴舞・平三地区)		
風戸58	熊野神社	伊弉諾尊	矢田89	矢田神社	大山咋命
栢橋808	御霊神社	高皇産霊神	矢田70	稻荷神社	倉稻魂命
上高根588	糺神社	級長津姫命	小草畑27	浅間神社	木花開耶姫命
上高根446	八坂神社	素盞鳴命	平蔵2577—2	浅間神社	木花開耶姫命
上高根705	貴船神社	級長津彦命	平蔵1814	熊野大神	天照大御神
上高根989	白山神社	伊弉諾命 伊邪册命		伊邪那岐命	伊邪那美命
上高根1479	熊野神社	伊邪册命	平蔵606	八幡神社	誉田別命
	速玉男命	事解男命	米原582	山神社	大山祇命
			米原2152	山神社	大山祇命
寺谷472	浅間神社	木花開耶姫命	加茂(高滝地区)		
寺谷754	大宮神社	大宮姫尊	久保1289	八坂神社	素盞鳴命
中高根1-1096	白幡神社	誉田別命	久保295	三社神社	伊弉諾命
中高根1223	鶴峯神社	誉田別命		伊邪册命	大日靈貴命
南岩崎415	養毛神社	素盞鳴命	久保436	神明神社	大日靈貴尊
南総(内田地区)			久保1148	熊野神社	事解男命
安久谷249	拾式天神社	国常立命	久保1312	雷神社	大雷神
石川557	八坂神社	須佐之男命	駒込109	神明神社	大日靈貴命
市場544	八坂神社	須佐之男命	高滝1	高瀧神社	瓊瓊杵尊
江古田252	大宮神社	大名持命		玉依姫尊	別雷尊
宿214	三嶋神社	大山祇命	外部田90	山王大権現	大山咋命
真ヶ谷373	荒沢神社	日本武尊	不入190	愛宕神社	詞具都智命
原田310	諏訪神社	建御名方命	本郷407	三峯神社	菅原道真公
水沢238	日吉神社	大山咋命	本郷1469	八坂神社	素盞鳴命
米沢30	八坂神社	須佐之男命	山口237	八坂神社	素盞鳴命
米沢715	淡島神社	日本武尊	養老27	八坂神社	素盞鳴命
米沢404	金刀毘羅神社	大己貴命	加茂(白鳥地区)		
南総(鶴舞・平三地区)			朝生原584	賀茂神社	別雷命
池和田932	大宮神社	大己貴命	朝生原618	山神社	大山祇命
下矢田699	八坂神社	誉田別命	朝生原1002	白山神社	菊理媛命
田尾981	諏訪神社	建身名方尊	石神225	羽雄神社	大山祇命
田尾542	田美神社	天照皇大神	石塚546	白鳥神社	日本武尊
田尾290	八雲神社	不詳	折津24	大山祇神社	大山祇命
鶴舞624	鶴舞神社	倉稻魂命	折津804	熊野神社	伊邪册命
	胡桃下稻荷大神	皇産魂命	折津1069	大山祇神社	大山祇神社
鶴舞256	日枝神社	大山咋命	国本468	浅間神社	木花咲耶姫命
山小川374	熊野神社	伊邪札册命	月崎273	熊野神社	伊邪那岐命
		速玉男命	戸面378	日枝神社	大山祇命

市原市内の神社の祭神一覧

住 所	神 社 名	祭 神	住 所	神 社 名	祭 神
加茂(白鳥地区)			加茂(里見地区)		
戸面601	熊野神社	石擬姥命	飯給136	熊野神社	伊邪那岐命
梁川99-2	大山神社	大柳祇命	飯給937	白山神社	大友皇子
加茂(富山地区)			飯給57	高塚神社	不明三柱
新井148	面足神社	面足命	大戸266	熊野神社	伊邪那岐命
吉沢91	稲荷神社	阿保親王	柿木台106	大山祇神社	大山祇命
吉沢226	国常立神社	国常立命	田淵816	熊野神社	伊邪那岐命
古敷谷170	八坂神社	素盞鳴命	月出1007	大山祇神社	大山祇命
古敷谷2087	天津日神社	天照皇大神	徳氏900	大山祇神社	大山祇命
古敷谷2346	浅間神社	木花咲耶姫命	徳氏417	浅間神社	木花咲耶姫命
古敷谷2671	熊野神社	熊野久須毘命	徳氏45	三峯神社	伊邪那岐命
小谷田634	大山祇神社	大山祇命	平野242	大山祇神社	大山祇命
			万田野138	天津日神社	大日靈命

この冊子を作成にあたり、参考資料として古事記や日本書紀を元に作成しました。一部の表現の方法に起きましては編集の段階で修正をしておりますが、内容については代わりのないようになっています。

市原市内にも、これらの神々が最新として祀られておりますが、それ以外の神様もあります。また、同一の神ですが、表現の方法で違うものもありますのでご承知下さい。

市原市内の神社と祭神については、「いちはらの地名の由来と史跡と文化財」を参考にしています。

制作・編集 上総の国 いちはらの歴史を知る会

(ふるさと市原をつなぐ連絡会 会員)

問い合わせ先 090-3545-1113